



月刊えるるでは市民活動（NPOやボランティア、地域活動など）で活躍中の方々を少しずつご紹介していきたいと思っています。

これらの活動で出会える・触れ合える・学べる、そしてつながるを応援します。

今月のイチオシ



ともだちや絵本ギャラリー実行委員会さん

5月12日（土）にえるる2階にて開催されたイベント「おれたち、ともだち！」シリーズ20周年記念〜キツネとオオカミのえほんのじかん〜にお邪魔してきました。イベントの様子と合わせていろいろとお話を伺いました。

活動の原点は

炭鉱閉山に伴い大牟田に活気がなくなり、何かまちを元気にできることはないかと考えていました。そのような中、大牟田市出身の方に日本絵本賞など数多く受賞されている絵本作家の内田麟太郎さんがいらっしゃいましたので、大牟田の活性化のために協力していただきました。

ともだちや絵本ギャラリーの歩み

2013年に絵本によるまちづくり推進会議を立ち上げ、講演会や原画展などを開催しました。

2014年の秋には銀座通り商店街で空き店舗を使った「ともだちや絵本ギャラリー」を開催し、子どもたちだけでなく高齢者を含めた大人や家族が気軽に立ち寄れる絵本ギャラリーとして、長期間かけて実証実験を行いました。この取り組みでは、内田麟太郎さんの原画展やワークショップを中心に、児童文学や絵本の魅力による中心市街地の活性化を目指しました。その後も毎年のように様々な場所で講演会・原画展や読み聞かせなどのイベントを行っています。

2015年と2016年には、社会体験型イベント「ミニおおむた」も同時開催しました。この「ミニおおむた」は、これから担う子どもたちが「自分たちで作る大牟田」をテーマに、楽しみながら自分たちのまちのことを考える機会として取り組みました。

絵本によるまちの活性化

絵本でまちの活性化、まちづくりができるのか？と疑問を持つ意見もありましたが、絵本の世界観を通して、子どもたちの健全な心の育成と、幅広い世代の交流を広げることができるという強い思いで活動しており、賛同していただける方も増えてきています。



おはなし会と
ワークショップ
の様子



今回のイベントについて

今回「おれたち、ともだち！」シリーズの絵本が20周年を迎えるにあたり、東京で開催される出版社のイベントに内田さんと作画家の降矢ななさんが出演されることを知りました。ぜひ大牟田でも対談とライブペインティングをしていただけないかと連絡を取ったところ、今までの実行委員会の活動と内田さんの尽力のおかげで、降矢さんにも快諾いただき、今回のような大きなイベントを開催することができました。対談では入場時間の前から行列ができ、イベント全体の来場者は約300人にもなりました。また、午前中から行っていたおはなし会やワークショップにもたくさんの方にきていただきました。遠くは広島、大分の日田や熊本、マイクロバスで来られた団体もいらっしゃいました。



対談とライブ
ペインティング
の様子



大牟田でほんものに触れる

絵本のイベントは都市部で開催されることが多く、大牟田の子どもたちがライブペインティングで、絵が仕上がっていく過程を見ることはなかなかなかったと思います。いまや小学校の教科書にも掲載されている「ともだちや」の世界観を、生で体験・体感できる機会を子どもたちに提供できたことはとてもうれしく思っています。

絵本ギャラリーについて

大牟田市動物園と一緒に絵本ギャラリーができればいいなと考えています。見るところ・食べるところ・ワークショップがあり、「自分たちの子どものころはこうだったよ」などと小さい子どもたちから大人まで、みんなで一緒に絵本についてお話ができる、そんな場所になればいいですね。水木しげるロードやアンパンマンミュージアムなどのように市内外から「大牟田と言えば」絵本ギャラリーだよね」と広く認識される施設になればと思います。

まちが賑わい活性化して、たくさんの人に大牟田を知ってもらい、遊びに来てもらいたいですね。

問合せ ともだちや絵本ギャラリー実行委員会
(大牟田商工会議所内：平日9:00～17:30)
(TEL 55-1111) (FAX 55-1114)